

角永和夫は山の彫刻の幹に取り組みんでいます

木のキャラクターを表示する



チェーンソーを切るところの長さ8メートルの木の幹を持つ角永和夫(写真・ロブ・リーナーツ)

文・ MIRELLE DERKS

ヴァーヘニンゲン-傘を手にしっかりと固定した状態で、彼は処理されるのを待っている木の幹を見ます。角永和夫は、今後2週間で、Images on the Mountain展のためにチェーンソーを使って15本の木の幹に取り組みます。雨が降り始めたので不便です。切り欠きができたら、木をもう1か月間放置して乾かし、収縮させて、彫られた図をより見やすくする必要があります。昨日の午後、それぞれ数千キロの重さの木の幹がベルモンテ植物園に届けられました。長さ8メートル、直径50~80センチ。さて、最初にするのは、幹から樹皮を取り除くために、木を「はがす」ことです。いずれにせよ、この分野で豊富な経験を持つマシュー・ウィットモンドはすでにこのために採用されています。

南米のアマゾン地域の熱帯雨林で取得し、数年かけて2ヘクタールの木を切り倒し、板や芸術作品に加工しました。47歳の角永は、過去20年にわたって名を馳せ、天然素材から芸術作品を生み出してきたアーティストです。彼は木や竹から始めて、紙、絹、そして今ではガラスにも素材の選択肢を広げてきました。

彼の作品のうちの2つ(1つは紙で、もう1つは木で

出来ている)は、フンデルローのクレラー・ミュラーム美術館が所有しています。1981年以来、彼はハーグのGalerie Nouvelles Imagesにも数回出展しています。しかし、彼の作品への最大の関心は米国から来ています。丘に向かって15本の木の幹が樹木園でHuub Kortekaasの像の近くのImages on the Mountain山の上のイメージの第6版のための場所を与られます。木の幹は、地面から約40センチメートルの土台の上で、ネーデルライン川の側にある小さな丘に向かって持ち上げられます。

角永はチェーンソーでシリーズ8を見ました。木の幹が、いわば長方形の正方形のパターンに分割された線の遊び。幹が乾いて縮むため、切り込みの間に約5センチの隙間ができます。開業前の6月6日から作業を開始し、天候により変更した4ヶ月で展示します。それは彼の作品の中で最も重要なことでもあります: 1木の特徴を示し、それを出させる。自然が中心であるという今年のコンセプトにぴったり合っていると、現在アートワークを計画しているコーディネーターのNetty van de Kampは言います。自然はもはや1つの作品の背景にはなりません、両方が強く織り交ぜられています。「それは簡単になるだろう」とウィットは叫ぶ、彼が丸太の皮を切り始めたときの口。「これは手動で行う必要があります」と彼は説明します。「ピーリングマシンは、木材に隆起を作ります。」そして、それは角永の仕事に有害だろう。Netty van de Kampは、雨の解決策を考え出すために記者会見を行っています。ターポリンを用意する必要があります。その下で作業し、一度作業するとトランクが1か月間乾くことができます。部族も部分的に身を守っていると、角永は説明します。「雨が降り始めると、木自体が保護のために徐々に閉じます。」オランダでは、彼はPopulus Serotinaのポプラ材を使用しています。「初めてこの木材を扱うので、それがどのように機能するかを待つ必要があります。しかし、私はいつも同じコンセプト、つまり木自身の性格で仕事をしています。各木には独自の特徴があります。「今日、角永は最初の皮をむいた木に取り組み始めます。彼は紙にデザインを持っていません、それは彼の頭の中にあります。